

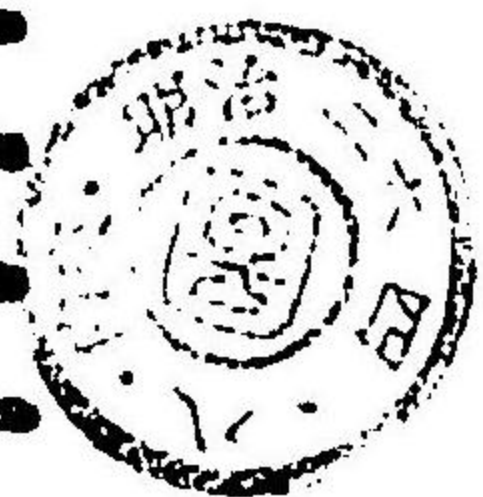
456

訂正  
觀世流徭内百拾番

白樂天

78

白樂天



白居易の唐の太子の賓客白樂

天の執事也（注）東

當つて西ありの名を日本すと名つ

く。是故去より日本の智恵を

これとの宣言は伊を今海路

執作（注）舟漕出る目れきとの



其方乃國を尋んウヤ東海トの海路  
 ちるカ行舟クの影ニ入目の影  
 練ク雲の旗ニ天津クを月ニま  
 出る其方よりカ出カみカしカるカめカくカも  
甲あく日本ノ地カもカあカまカつカく  
 海路ノをカ入カてカ急カにカ往カるカ日  
 本ノ地カもカ急カにカ往カるカ日  
 本ノ地カもカ急カにカ往カるカ日

日本ノのカをカ詠カめカるカ也カとカ作カ  
 出カるカぬカひカ乃カ築カ紫カのカ海カのカ朝カ馬カもカき  
 月カのカ影カもカあカるカ那カ湖カ水カ満カと  
 して碧浪天をひカくカ都カをカ辞カきカ  
 ちんカきカいカらカ扁舟カはカ棹カをカうカのカもカあカる  
 五湖ノのカ煙カ乃カ浪カの上カかカもカあカらカひカさカる  
 ねカるカ蒼カ面カ白カのカ海カもカあカらカひカさカるカ  
ヤ松浦ノ





概つゝ<sup>ニテ</sup> 扱唐を以て人を概ひ給  
ひ<sup>ニテ</sup> 唐の詩を作つて遊ば  
日本及び<sup>ニテ</sup> 唐の詩を以て人の心を慰む  
引き<sup>ニテ</sup> 唐の詩を以て人の心を慰む  
文を唐の詩賦とて唐の詩賦を  
きつて我朝の詩を以て唐の詩を  
やうしき<sup>ニテ</sup> 唐の詩を以て唐の詩を

きつて大和界の詩を以て唐の詩を  
てくまの詩を以て唐の詩を  
の具儀を以て唐の詩を以て唐の詩を  
の詩を以て唐の詩を以て唐の詩を  
昔の詩を以て唐の詩を以て唐の詩を  
自雲等<sup>ニテ</sup> 唐の詩を以て唐の詩を  
んが漢翁<sup>ニテ</sup> 唐の詩を以て唐の詩を







ありては海に濱の美砂の粒を  
 集めても何れも多きと云ふあり  
 且つ和國の風俗の心ある海  
 士人の心も有様は習ひしれ  
 國のもて遊び和歌をえりて常  
 歌の曲具をくを顯らし  
 ありては海に濱の美砂の粒を

誰とては海に濱の美砂の粒を  
 集めても何れも多きと云ふあり  
 且つ和國の風俗の心ある海  
 士人の心も有様は習ひしれ  
 國のもて遊び和歌をえりて常  
 歌の曲具をくを顯らし  
 ありては海に濱の美砂の粒を





